

生ごみを活用！ 資源とお金を無駄にしない！

向島で始まった！食の循環！



次の世代に繋がりたい！ 循環型農業に挑む『中嶋農園』

向島駅前わいわい元気バザールに、移動販売が出来る車で、お店を出されていた中嶋農園を取材しました。農業を始めたきっかけは、親がしていたからという理由だったけど、今は次の若い人たちにも農業の良さや大切さを知って欲しいと思っていると言っていました。

「私は、好きな野菜が、どうやって出来ているのか興味があります。」と言ったら、何が好き？と聞かれたので「お芋」と答えました。

中嶋農園では、野菜を育てて、配達すること以外に、飲食店で出た生ごみを回収して、コンポストで堆肥にしているそうです。



箱にもみ殻を入れて保存すると長期保存が出来るそうです。

その堆肥で出来た土を使って、地域の人とお芋の苗を植えたり、育てたお芋を収穫するイベントをしたそうです。体験してもらった事で、生ごみで作った土がどんなふうになるのか、どんな野菜が出来るのかを、知ってもらうことが出来ると言っていました。

生ごみで出来た土で作った野菜はおいしいのかなあと思いましたが、その時に聞けなかったのが、あとで、中嶋農園さんのイベントで生ごみ堆肥で作られたお芋を食べた人に聞いてみました。どのお芋も大きく成長していて、とても甘かったですと言っていました。私はお芋が大好きなので、今度食べてみたいと思いました。(小学6年生子ども記者より)



中嶋農園の公式LINEはこちらから



ドゥーユーキョウト？
コンポストを普及する会
Facebookはこちらから



伏見で広がる取組！地域活動で環境を守る！



コンポストの説明を聞いている子ども記者(箱に入っているのがコンポスト)

お野菜のくずや生ごみを、コンポストの土に混ぜると分解して栄養たっぷりの土に変わっていく。うまくいけば、温度が高くなるけど、今は温度が上がっていかないと言っていました。温度が高くなっている土を触ってみたいなあと思いました。

(小学6年生、4年生、2年生の子ども記者より)

伏見青少年活動センターでは、大学生の人とたちが、月に2回土曜日に、子ども食堂や喫茶店をしているそうです。高校生以下は、ジャンケンすると半額になるそうです。やってみたいなあ。

食堂や喫茶店の生ごみは、京都すばる高校の高校生がコンポスト作りの体験会で作ったコンポストに入れて、土にする取り組みにチャレンジしていると言っていました。



私は、コンポストをやったことがないから、土がペットみたいな感じになるってどんな感じなんだろうと思います。(小学6年生子ども記者より)

旬の野菜や地元の野菜を考えて 食べたほうが良い理由って？

エコ学区サポートセンターでは、脱炭素スタイルを京都市のあちこちで、地域の人の環境の取り組みに協力しているそうです。そんなエコ学区サポートセンターの仕事をしている人を取材しました。

「旬の野菜や地元の野菜を食べた方がいいよ」ってよく言われているけど、その理由を質問してみました。

私の予想は、スーパーに行くと、野菜を買う時に、その野菜を作った人の顔や名前が書いてあると安心。体に悪い物が入っている食べ物には怖いと思う。だから、新鮮で誰が作ったかわかる食べ物を選んだ方がいいかなと思いました。

いいのかなと思いました。

取材でわかったのは、旬の野菜を選ぶ事で、育てる時に必要な灯油が少なくてすむ事や、地元の食べ物を選んだ方が、配達する時の燃料やCO2が少なくてすむからと教えてもらいました。体に悪いものは、地球にも悪いと言っていました。(小学5年生 子ども記者より)

車の後ろから出てる煙突の煙(排気ガス)もCO2で環境に悪いものと教えてもらいました。車の後ろの煙突が掃除機みたいに、ゴミを吸ってくれたら、街中の自動車が掃除機になって、道路のゴミを吸い込んでくれるのになあと思いました。(小学1年生 子ども記者より)



取材の前に、京エコロジーセンターで旬の食べ物についての説明を聞きました。食べ物の旬の時期がいつかを考えました。
【みなさんも考えてみてください】
クイズ「ぶどう、すいか、りんご それぞれの旬の時期はいつでしょう！」答えは裏面にあります。

実践しよう！

京都らしい

脱炭素スタイル！



エコ学区サポートセンター
ホームページ

コンポストのなぞに迫る！



紙は木から出来ていて自然の物なの

「自然の物は土に還るから、生ごみをコンポストで土にしたら、ゴミが減る。コンポストには、いろいろな種類がある」と聞きました。木箱で出来たミミズコンポストというのを見せられてきました。蓋が開いた瞬間、うわーと声を出してしまいました。気持ちわるい。学校で、ミミズを見て盛り上がりつつある男子もいるけど、私は気持ち悪いからイヤや。でも、ミミズは、生ごみを食べて土を作ってくれるそうです。



堆肥になった土の様子を観察。生ごみがなくなって土の匂いになっていました。

生ごみはどれぐらいで土になるの？

ミミズコンポスト

なんでミミズなん？

土の中には他にも虫がいるのにな...



コンポストに入れるとどれぐらいで土になるんですか？と聞いてみました。冬だと外の温度が低いから、時間がかかるけど、夏だと1週間ぐらいで生ごみが消えて土になると言っていました。ほんまに？と思ったけど、そうならたまたまかと思った。生ごみが消えたあとの土は、生ごみの匂いはなくて土の匂いになりました。(小学4年生 子ども記者より)

「ミミズが入っている木箱も自然の物なので、ミミズが食べて、木箱の中から、ミミズが出てこないか気になったので聞いてみました。木は固いし、ミミズは口が小さいから、難しいかもしれないけど、木が腐って柔らかくなったら食べるかもしれないと言っていました。」

土の中には、他にもいろいろな虫がいるのよ、なんでミミズなんやろうと思ったの聞いてみました。職員の方が、ミミズを選んだ理由は、ミミズが土を耕したり、たくさん増えるので選んだと言っていました。ミミズは、良い土を作ってくれる生き物だそうです。ミミズが生ごみを食べて、ウンチになって土になる話を聞いて、「うわあイヤやあ」と思ったけど、ゴミを捨てているお金がちよっとでもいらなくなると、環境に良いのだったらそれもいいなあと思った。(小学生 子ども記者全員より)

地球環境を守るために、わたしたちが出来ることは何か？

京エコロジーセンターで聞いてみた！！



ゴミを捨てているけど、ゴミだけではなくお金も捨てていることを知りました

ゴミ箱の中にお金？もったいない！

ゴミのコーナーでは、ゴミはゴミ箱へ捨てるけど、そのゴミを捨てるゴミ袋にもお金がかかっているのを知りました。私は、ゴミを減らすために何が出来るか考えたけど、本当に難しかった。だってお菓子は食べたい。でも食べたゴミが出る。私は、ゴミは小さくしてから捨てるようにしようと考えました。(小学5年生の子ども記者より)

地産地消というけれど？

寒い冬にトマトを作ろうと思ったら、暖房ガンガンに効かした部屋がある。だから暖房に使う灯油がたくさんの。夏と比べたら倍ぐらいの灯油がいるのかな？と思いました。でも、ほんまは10倍の灯油がいるそうです。量が多くてびびりしました。たくさん灯油を燃やすと地球の温度がどんどん高くなるそうです。

地産地消



京エコロジーセンターのホームページはこちらから

目指したい社会はどっち？



向島駅前わいわい元気バザールで、ゴミの分別アンケートをされていた。目指したい社会を選択し、ゴミを捨てるという取り組み。大半の大人は、ゴミ箱の前で一旦立ちどまり、「心も循環型社会」の方へゴミを入れていた。

そこへ5歳の男の子がやって来て、ゴミを入れるゴミ箱を迷っている。字が読めなくてわからない様子なので、説明してみた。「ゴミが少なくて、健康で元気な暮らしか、おもちゃもお菓子もいっぱい、ゴミもいっぱい暮らしか、どっちがいい？」指さしたのは、おもちゃも、お菓子もいっぱいの方だった。循環型社会を目指したいが、コンビニや100円ショップを利用しているのも事実。子どもの正直な選択で、理想だけでなく、本当に目指したい社会のあるべき姿をあらためて考える事ができた。(note7代表)



表面のクイズの答え ぶどう、夏、すいか、夏、りんご、秋

子ども新聞ワークショップ

出店者さん取材しよう！取材内容は後日新聞になります

@向島駅前わいわい元気バザール

対象：小学生
参加費：無料

3月6日9月12月の
第4日曜日
10時~14時

諸事情でワークショップ開催を中止する場合があります。

コンポストの作り方



コンポストの作り方



子ども記者登録会員募集中



登録無料! 「子ども新聞公式LINE」のお友達登録をして頂くと、年に数回行われる子ども新聞ワークショップのお知らせが届き、子ども記者活動に参加できます。

取材先は、地域のお店や施設、企業など。子ども記者のリクエストで取材先を決める事もあります!

QRコードをスキャンしてお友達登録を!

対象：小学生



子ども新聞公式LINE